



地域少子化対策検証プロジェクト
参考資料

中津市

2015年9月30日

中津市概要

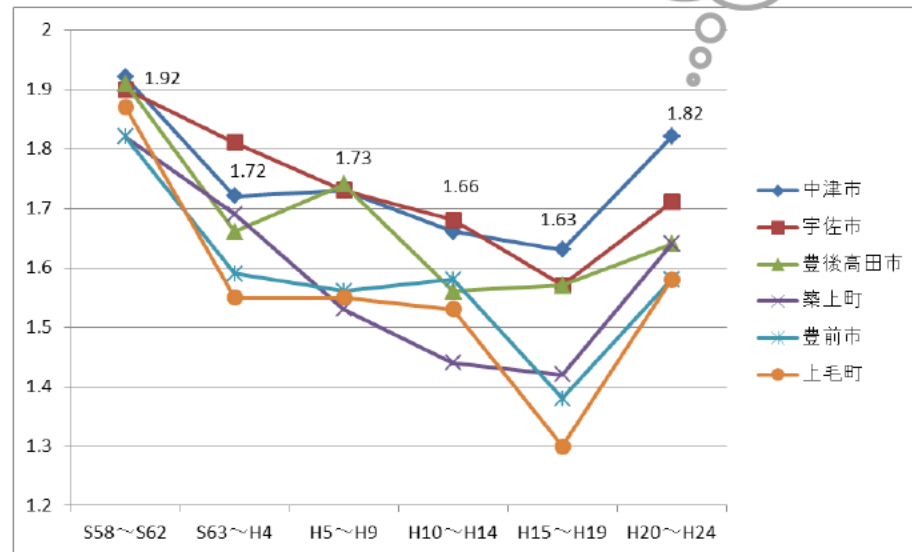
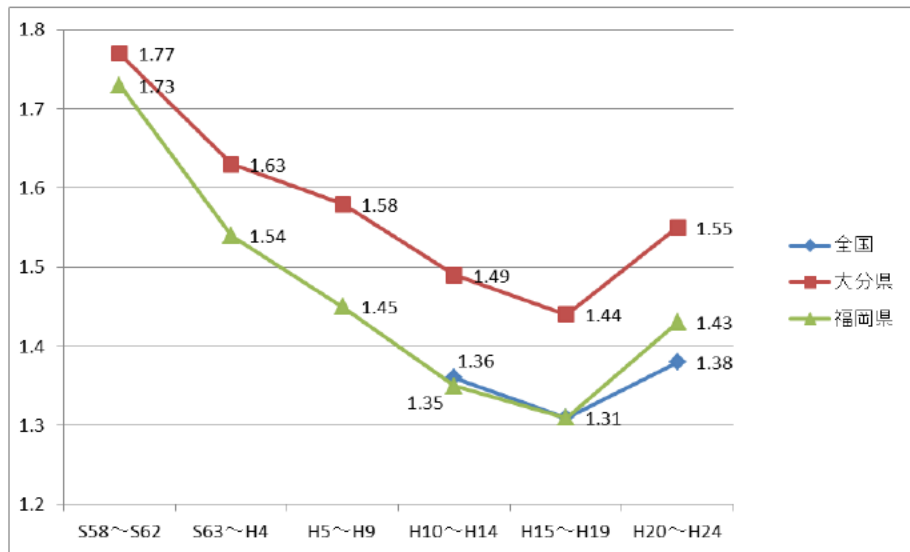
- 中津市は、大分県の北西部に位置し、福岡県の東部地域と隣接した、人口約86,000人の県境の都市です。



- 平成17年に合併して現在の市域となりましたが、山国川流域の山間部から周防灘沿岸部まで自然に恵まれた地域であり、この自然を活かして農業、林業、水産業、畜産業とすべての1次産業が営まれています。また近年では、北部の平野部を中心に自動車関連企業の集積が進んでおり、交通面においても、東九州自動車道や中津日田地域高規格道路等の広域交通ネットワークが着々と整備されつつあることなどから、圏域の中心都市としてのポテンシャルが顕在化しつつあります。

合計特殊出生率の推移比較

H25年
は1.85



	S58~S62	S63~H4	H5~H9	H10~H14	H15~H19	H20~H24
中津市	1.92	1.72	1.73	1.66	1.63	1.82
宇佐市	1.90	1.81	1.73	1.68	1.57	1.71
豊後高田市	1.91	1.66	1.74	1.56	1.57	1.64
築上町	1.82	1.69	1.53	1.44	1.42	1.64
豊前市	1.82	1.59	1.56	1.58	1.38	1.58
上毛町	1.87	1.55	1.55	1.53	1.30	1.58
全国				1.36	1.31	1.38
大分県	1.77	1.63	1.58	1.49	1.44	1.55
福岡県	1.73	1.54	1.45	1.35	1.31	1.43

大分県は全国平均に比べ、高い出生率であるが、その中でも中津市は県内の他の自治体に比べ高い値となっており、近年も上昇傾向である。

【出典】
厚生労働省 人口動態保健所・市区町村別統計

中津市の出生率に影響を及ぼしている可能性のある要因は？

地理的要因

- 比較的自然災害が少ない
- 物価が安い(全ての一次産業が営まれている)
- 中規模都市(人口50万程度)からある程度距離がある

外部環境要因

- ダイハツ九州や関連企業の進出による雇用創出
- 東九州自動車道、中津日田高規格道路、重要港湾中津港の整備

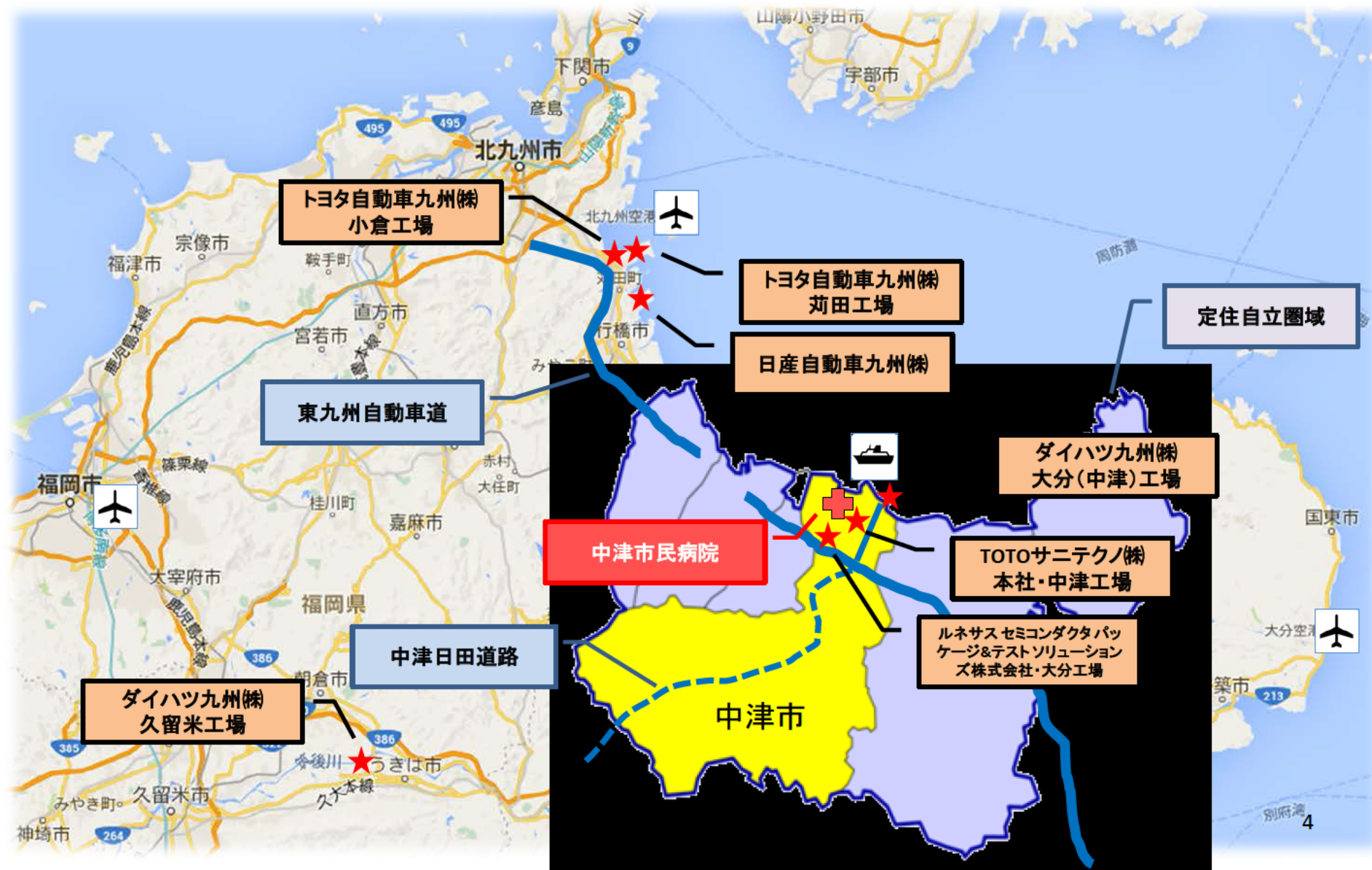
施策要因

- 小児救急医療など市民病院を核とした医療体制の充実(定住自立圏構想)
- 子育て支援施策(放課後児童クラブの充実、保育所施設の集中整備、地域で子どもを見守る体制の充実など)

その他

- 若者の地元志向が強い(高校卒業後、約6割が地元に着)
- 町内の繋がりや同窓生の繋がり強い

北部九州における自動車生産工場等の位置



ダイハツ九州進出の影響

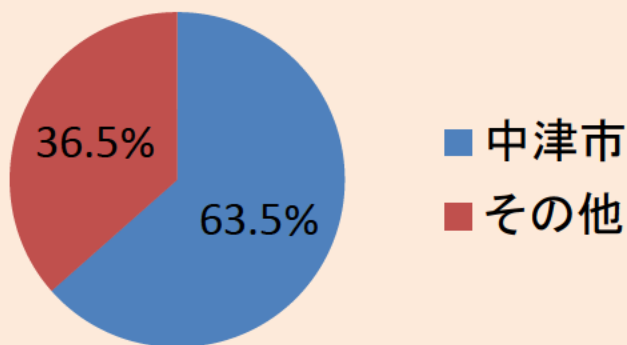


- ダイハツ九州従業員数 約2,300人

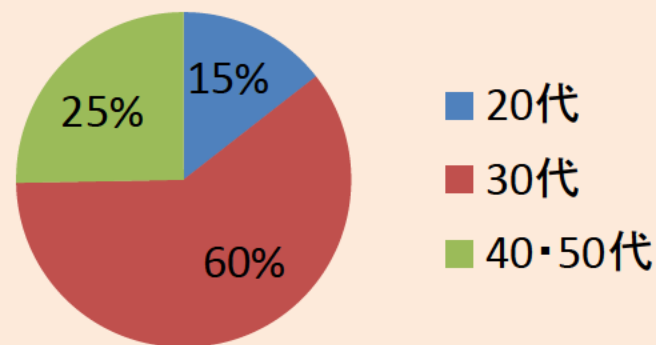
* 関連企業も含めると約4,100人の雇用増

* 増設含む

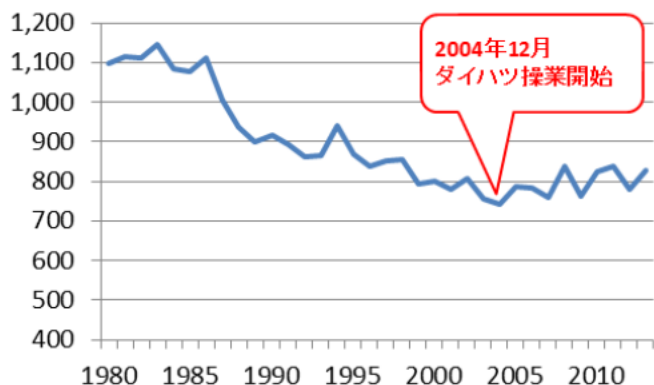
従業員の居住地内訳



中津市在住従業員の年代



中津市の出生数推移



2014年

従業員が産んだ子どもの数 C	138 人
中津市全体の年間出生数 D	827 人
C/D	16.7%

ダイハツ九州の従業員の3/4は20~30代の子育て世代であり、中津市全体の年間出生数の17%程度を占めており、出生数の減少傾向に歯止めをかけていると思われる。

圏域の中核病院 中津市民病院

○中津市の医療の状況

市内の医療機関は74施設(歯科は含まず)。
そのうち中津市民病院は大分県北部と福岡県の
東部の一部を含む24万人医療圏の中核病院と
しての役割を担っている。



中津市民病院の特徴

地域がん診療 連携拠点病院

リニアックやPET機能付きガンマカメラ等
の最新の放射線治療診断機器を導入。
地域の医療機関とも連携し質の高いがん医療を目指す。

地域周産期母子 医療センター

平成22年6月に産科を再開し、県北では初めての認定。
NICU(新生児集中治療室)のある小児科との連携によりハイリ
スク妊娠にも対応。

地域医療支援病院

紹介患者への医療提供、病床や医療機器の共同利用、地域の
医療従事者の研修等を通じて、地域のかかりつけ医等を支援す
るとともに連携強化に取り組む。

小児救急センター

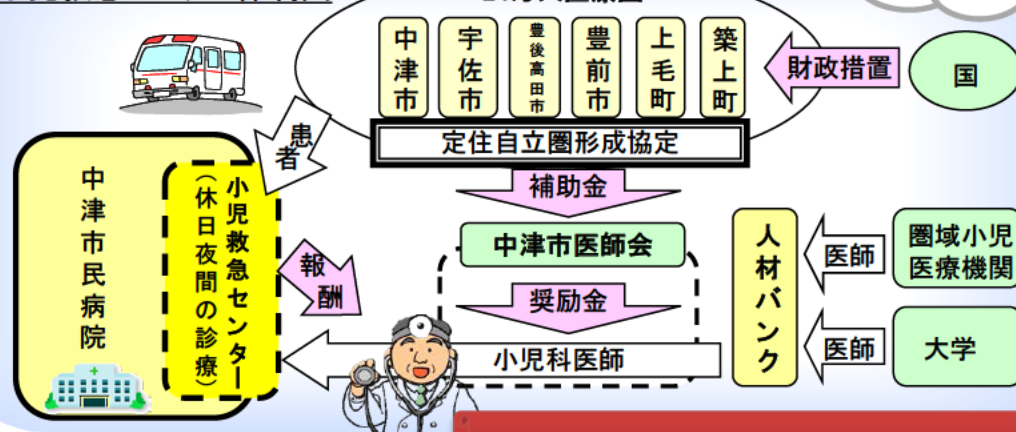
定住自立圏構想に基づき24万人医療圏の小児救急患者を24時
間365日受け入れる体制を整える。

九州周防灘地域定住自立圏の主な取り組み

構成市町村	中津市、宇佐市、豊後高田市、豊前市、築上町、上毛町				
中心市宣言日	平成21年4月30日	協定締結日	平成21年11月2日	ビジョン策定日	平成22年3月12日

生活機能の強化

小児救急センター体制図



現在、週2回
医師を派遣

<小児救急センター支援>

中津市民病院内にある小児救急センターの24時間365日体制維持のため医師確保経費などの運営費を助成する。

<スポーツ施設相互利用促進>

圏域住民に対する相互利用促進を図るための取り組みを共同で実施する。

<勤労者福祉サービスセンター運営>

圏域の中小企業従事者に対する共済金の給付や余暇活動など福利厚生サービスを提供するセンターの運営。

暮らしの元気があふれる地方圏域

<広域観光パンフレット作成等>

広域的な観光案内看板設置やパンフレット作成のほか、広域観光ナビゲーションシステムを運用。



<コミュニティバス運行>

生活圏が一致する圏域の中で県境を越えている豊前市と中津市民病院を結ぶコミュニティバスを共同で運行する。



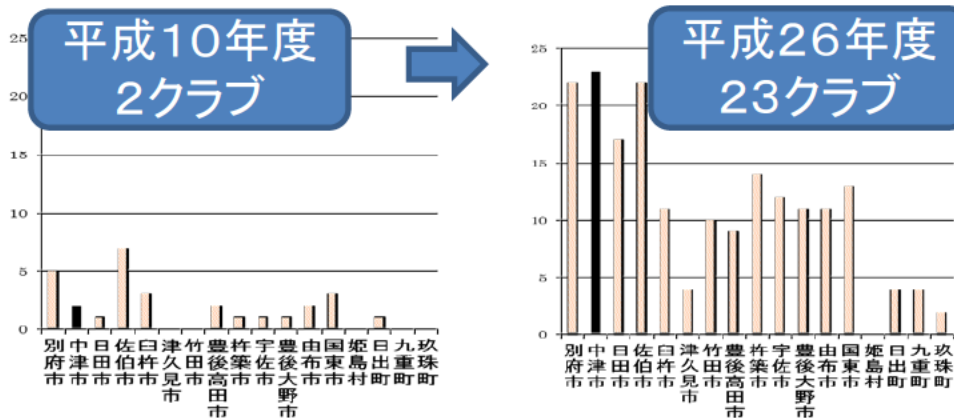
結びつきやネットワークの強化

圏域の位置図

子育て支援策

～子どもの明るい声がひびきあう中津市を目指して～

◆放課後児童クラブの増設



・中津市は子どもを持つ女性の働く割合が高い
 ・平成10年頃は、固定的性別役割分担意識が強く残っていたが運営を地域の運営委員会に委託することで、地域を代表する方々の意識が変わり、女性が働くことへの理解が得られるようになった。

↓

女性が子育てしやすいと感じる街へ

◆保育所施設の集中整備

◆子育てに配慮した公園の整備

◆地域で子どもを見守る体制の充実

●要保護児童対策地域協議会・実務者会議（定期連絡会）の充実

実務者のメンバーに地元の小児科医と大学教授がスーパーバイザーとして入り、専門的組織的に動くことで虐待となる前の困りを抱えた家庭の早期発見に努めている。

（平成26年度実務者会議開催件数23回・他市10回程度）

H27・H28で
定員8%増

県内では
中津市だけ

多くの子育ての施策を行っても、そこに従事する人に「魂」が入っていないと市民には届かない。子育て関連事業所の方々や専門機関が子育て支援課を窓口として組織的に動いている。

中津市 近年のトピック

- 平成11年6月 中津港が重要港湾に昇格
- 平成12年7月 中津市民病院開院(国立中津病院より移譲)
- 平成13年6月 中津競馬廃止
- 平成16年12月 ダイハツ車体(現ダイハツ九州)操業開始
- 平成17年3月 1市3町1村の合併により新中津市誕生
- 平成19年12月 ダイハツ九州、第2工場竣工
- 平成20年10月 定住自立圏構想先行実施団体に選定
- 平成21年11月 定住自立圏形成協定を締結
- 平成22年12月 中津市民病院が「地域周産期母子医療センター」に認定
- 平成24年7月 九州北部豪雨被害
- 平成24年10月 新「中津市民病院」開院
- 平成26年1月 NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」放送開始
- 平成27年3月 東九州自動車道中津IC開通